

“文京の街”にはためくフラッグ

デザインは中大生

中央大学理工学部的美術サークル「白門美術同好会」(理工連盟)が、東京・文京区の中大後楽園キャンパス近くの商店会街路灯を彩る「フラッグ」をデザインした。全33基が道行く人の目を楽しませている。

理工学部 北島僚人さん 志治輝さん





街路灯フラッグは文京区と区内の各商店会、大学の三者が各所で協力制作して、「文京の街」にふさわしいデザインの創作を目指す。大学とのコラボは2016年度から始まった。2例目が中大だ。

中大独自デザインの制作者は北島僚人さん（生命科学科3年）。文京区や商店会との折衝を志治輝さん（精密機械工学科4年）が担当した。

中大に依頼があったのは2017年2月。志治さんによると「同好会の普段の活動とは毛色の違う試みに興味をひかれて引き受けました」

制作過程をデザイナーの北島さんが振り返る。「これまでも個人的にいろいろな方からの要望を伺って絵を描いたり、デザインを考えたりという経験があったので、今回のお話をいただいて意気込みは十分だったのですが…」

ここで難問が生じた。「区のガイドラインによる色数の指定、遠くからも分かりやすいデザイン、文字と絵のバランスや配置など課題がたくさんある中で、商店会の皆さんの思いをいかにデザインに反映させるかは、正直苦しかったです」と北島さん。

文京区には『屋外広告物景観ガイドライン』がある。策定は2009年3月。「地域の風景と調和し、建物と一体的にしつらえ、人の目に優しい環境を整える」。「使用する色は白色を含めて4色までに抑える」

後樂園キャンパス正門を出て左折、池袋方面へ歩くと数分で信号灯表示「富坂上」が見える。街路灯フラッグはこの先から伝通院前交差点付近の一带、春日通りの両側計33基にはためいている。

この地域が「伝通院前通り三盛会」商店会。伝通院は徳川家康の母の法名が寺の名になった浄土宗の名刹で、地域の象徴的存在である。

のぼりのようなフラッグには、流れるような書体で『あなたのまちな商店街 伝通院前通り三盛会』と2行で刻まれ、伝通院本堂と商店会のシンボルマーク、ハナミズキ（春日通り並木道の花）が巧みに

配置されている。

しっとりとした街並みによく合う創作だ。フラッグ下の案内板には「中央大学理工学部デザイン」とある。



との規約がある。

掲示は2020年まで

デザインの腕の見せどころは、開山が室町時代の1415年という伝通院のイメージを大切にしながら、現代的和風の趣をいかにして演出するか、だった。

コンセプトの取りまとめに尽力した志治さんが続ける。

「多くの案から最終案が選ばれるまでの調整では様々な意見が飛び交い、一つにまとめることが大変でした。紆余曲折を経て完成し、

力を尽くした結果が形として残るのはとてもうれしく思います」

北島さんは「街路灯に取り付けられたフラッグを見たときは感無量でした。苦労しましたが、その分、やりがいは大きく、いい経験になりました」と充実感を口にした。

創作した作品が学内にとどまらず、地域貢献活動となっていく。後楽園キャンパス周辺住民への返礼ともいえる。ハナミズキの花言葉には「返礼」とあった。

三盛会商店会によると、フラッグの掲示は2020年頃まで続けるという。



(左) 生命科学科・北島僚人さん
(右) 精密機械工学科・志治輝さん



デザインに取り入れたハナミズキは、後楽園キャンパス正門前の春日通り並木道の花・ハナミズキをあしらった。そもそもは1912(大正元年)、当時の東京市が米国ワシントンへ寄贈したサクラの返礼として、1915年に米国から贈られた。花言葉の返礼はここに起因すると思われる。

